特集 1

「空港線」と「なんば」が織りなす多様な価値 ―関西国際空港とともに成長―

開港から30年を迎える関西国際空港は、年間約3,000万人の航空旅客が往来する日本を代表する国際空港であり、当社の空港線が空港輸送の中心を担っています。当社グループでは、空港開港を契機に沿線の活性化を進めており、特に、最大の事業拠点であるなんばをゲートウェイにふさわしいまちへと変貌させてきました。
本特集では、「空港線」と「なんば」の成長の軌跡、そして2050年に向けたなんばのまちづくりビジョンをご紹介します。

世界と関西を結ぶ架け橋

躍進を続ける「空港線」

空港線とラピートの特長

当社が運行する空港線は、関西国際空港となんばをはじめとする当社沿線を結ぶ空港アクセス路線として、関西国際空港の開港と合わせて運行を開始しました。現在は、1時間当たり空港急行4本、特急ラピート2本の計6本を運行しています。

特に、特急ラピートは当社のシンボルであり、国内外からの人気・知名度も非常に高く、運行開始から30年経った今でも根強い人気を誇っています。デザインコンセプトは「レトロフューチャー」であり、力強さと速さを融合させた先頭形状と人間味ある曲線、航空機のイメージから生まれた楕円窓がデザインのポイントです。近年は、ラッピングにも注力しており、2024年4月からは、大阪・関西万博のラッピングを施したラピートも運行しています。


最高速度120km/h、ドイツ語で「速い」を意味する特急ラピート

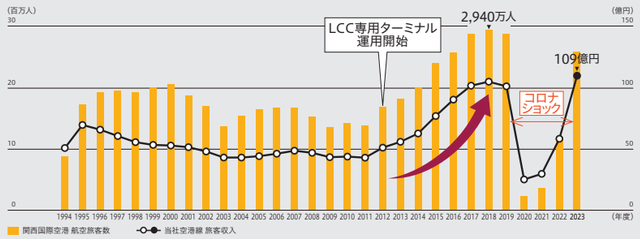
成長への軌跡と未来への加速

空港線運行開始当初は、想定よりも需要が伸び悩んでいましたが、関西国際空港へのLCC就航以降、アジアから近いという立地のメリットやアジア圏の経済発展も享受し、利用者数は堅調に推移しました。コロナ禍での落ち込みはあったものの、直近の2023年度には過去最高の利用実績を記録するなど、観光都市「なんば」の発展とともに成長を続けています。

今後は、関西国際空港の利用拡大、大阪・関西万博、大阪IR（統合型リゾート）などのビッグイベントと呼応する形で、さらなる伸びが期待できるとともに、2031年に予定されているなにわ筋線の開業で梅田などのキタエリアとも結節することとなります。空港輸送は当社の今後を支える成長ドライバーであるため、さらなる価値向上に注力していきます。


特急ラピートの乗車率は約7割の高水準で推移

関西国際空港 航空旅客数と当社空港線 旅客収入 30年間の推移



出典：関西エアポート株式会社（関西国際空港 航空旅客数）

関西国際空港

1994年に開港した関西国際空港は、日本を代表する国際空港です。24時間稼働が可能な空港で、国内外64都市※に就航し、国内だけでなくアジア圏を中心とした海外のお客さまからも多く利用されています。

今後は、新国際線出国エリアをオープンし、空港全体で約4,000万人のキャパシティ創出を予定しており、さらなる需要の伸びが期待できます。

※2023年冬期の旅客便実績

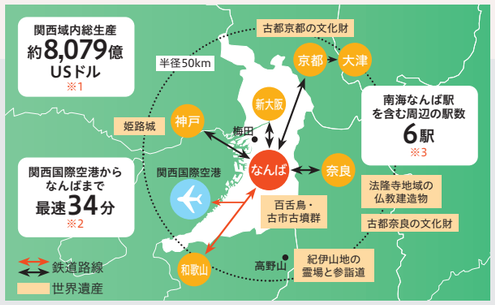

画像提供：関西エアポート株式会社

Kansai International Airport



Namba





なんば

関西国際空港と直結する、世界から関西へのゲートウェイである「なんば」は1日の乗降客数が90万人規模である日本の代表的なターミナルシティの一つです。

グルメや商業施設、エンターテインメント文化の中心である道頓堀など、観光資源が豊富で、大阪らしいカルチャーの発信地として、国内外の多くの方から高い人気を誇っています。

※1 出典：大阪市ホームページ、2020年度データ、関西は滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県の2府4県　※2 当社特急ラピート利用（当社調べ）
※3 駅数には近畿日本鉄道・阪神電気鉄道、Osaka Metro、JR線を含む

多様な価値の集積地

当社グループ最大拠点「なんば」

関西国際空港の開港となんばのまちづくり

当社グループは、1885年の創業以来、なんばを最大の事業拠点に据え、時代の最先端を追求するまちづくりを行いながら、まちとともに成長してきました。関西国際空港の建設着工を受け、新たに発展軌道に乗せるべく、1989年、なんばエリアに拠点を置く企業とともに協議会を設立し、なんばエリアの開発構想を進めました。

「大阪らしさ」「難波らしさ」を大切にするという構想のもと、2003年には「未来都市なにわ新都」をコンセプトにオフィスと商業の複合型施設である「なんばパークス」を開業しました。日本最大級の屋上公園を構えるなんばパークスは、なんばの雰囲気を大きく変えたと同時に、オフィスビルである「パークスタワー」の開業により、「訪れる人」だけでなく、「働く人」に対する価値の提供を開始するきっかけとなりました。


1980年代後半のなんば

空港線の伸長となんばのさらなる発展

なんばパークスの開業後も南海ターミナルビルの再生計画など、なんばエリアのさらなる価値向上に努めました。2018年には、活況な空港線需要と呼応して、「世界のNAMBAへ」を開発コンセプトに、「なんばスカイオ」を開業しました。国内外のヒト、モノ、コトが行き交う国際交流の拠点として、なんばの魅力を有機的につなぎ、世界へ向けて新たな価値を創造するランドマークとして君臨しています。

空港線からの来街者増加を契機に、なんばのまちは「国際観光都市としての発展」と「都市機能の充実」を遂げ続けています。まちのさらなる発展と進化を目指して、地域のステークホルダーとの共創・協働のもと、なんばエリアに世代や国籍を超えて多様な人々が集まる拠点を開発するまちづくり構想を引き続き進めていきます。


なんばスカイオ

ステークホルダーの声


大阪公立大学
研究推進機構特別教授
観光産業戦略研究所長
工学博士
橋爪 紳也 様

歴史とともに変貌を遂げ続けるなんばは、関西のサステナブルな発展を牽引する

「なんばエリア」は、日本を代表する盛り場であるミナミの一角を占める。とりわけ近代にあっては、1885年に開業したなんば駅を中心に、歓楽街や興行街に隣接したターミナル型の商業地として発展を見た。その後、昭和初期には高島屋南海店（現大阪店）が開店、戦後復興期には高島屋が「ニューブロードフロア」を増築、大阪球場や南海会館などが竣工する。さらに1980年には、「なんばCITY」が全館オープンする。時代の変化と社会の要請に応じて、常に新たな賑わいを生み出してきた。

転機となったのが、1994年の関西国際空港の開港である。大阪と海外をつなぐゲートという機能が託され、空港線を疾走する特急ラピートが話題となった。一方で「未来都市なにわ新都」の構想のもとに大阪球場跡を中心に再開発が進み、「なんばパークス」が開業した。近年、「なんばエリア」は新たな段階に入っている。周辺には超高層マンションも増加し、またホテルが開業している。2018年には「なんばスカイオ」が開業、その後、地域の新しい拠点となる「なんば広場」の整備も進められた。従来の商業中心の街から、職・住・遊などの機能が複合した都心への転換が始まりつつある。将来的には「なにわ筋線」と新駅の整備によって、「なんばエリア」の価値は、一層高まることだろう。

コロナ禍の経験を経てインバウンドの観光客も回復、さらには2025年の大阪・関西万博の開催は、大阪が世界から注目を集める好機となる。「なんばエリア」にはこれまで以上に、ナイトカルチャーの創造や新たなエンターテインメントの集積を図るなど、国際的な観光都市のゲートとなる機能が求められる。「なんばエリア」の魅力向上を通じて、大阪ひいては関西の持続的な発展に南海電鉄が貢献することが期待される。

特集1 「空港線」と「なんば」が織りなす多様な価値
―関西国際空港とともに成長―

2050年へ向けた「なんば」のまちづくり

「2050年の企業像」実現のために、「なんばのまちづくり」は欠かすことのできない当社の使命です。
行政や地元商店街など地域のステークホルダーとの共創・協働のもと、なんばエリアをより広域に捉え、
活性化を目指す「グレーターなんば構想」を加速させ、次世代のなんばを地域とともに創り上げていきます。

現在地

■ 変わりゆく「なんば」、新たな未来への拠点



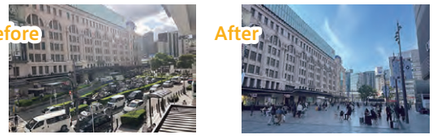
●当社所有物件　●当社関与案件　●開発中　●開発検討
※現時点の状況

共創プロジェクト1

なんば広場
―大阪の顔が変わる、人中心の空間へ

地域の一員として、なんばの「顔」である駅前を、国内外の来街者が滞在できる人中心の広場へと再編しています。2023年11月に先行供用開始した「なんば広場」では、広場を拠点にエリアでの回遊を促進するためのイベント誘致・社会実験を行っています。

今後、なんば広場の南東側に位置するなんさん通りの整備後、大阪・関西万博開幕前の2025年3月に全体完成を予定しています。なんば広場のオープン前と比較して、来街者数、滞在時間ともに増加するなど、徐々に効果も現れています。なんばでの回遊拠点となる新たなシンボル空間の誕生に向けて、引き続き大阪市、地元の関係者との共創を加速していきます。



なんば広場のビフォー・アフター：車中心から人中心の空間へと変貌

共創プロジェクト2

なんばパークス サウス
―なんばエリアに新たな活気をもたらす

なんばパークスの南側に広がる約9,000㎡の敷地に、新街区「なんばパークス サウス」を2023年7月にグランドオープンし、なんばエリアにおける賑わいの広がりを創出しています。

日本初進出となるタイの高級ホテル「センタラグランドホテル大阪」、なんばエリアに新しいオフィス空間を提供する「パークス サウス スクエア」などの３施設で構成される新街区は、「宿泊・滞在・働く場」の機能を補完、拡充しました。なんばエリアの観光やビジネスなどの拠点としてまちびらきから1年強、好調の滑り出しで、南方向へのエリア拡大、当社の掲げる「グレーターなんば構想」を体現する施設となっています。

NAMBA PARKS SOUTH


なんばパークス サウス：
なんばの新たな活動拠点としてなんば駅南側の活性化に手応え

将来像

■ グレーターなんばビジョン

まちづくり姿勢

わたしたちが社会に宣言する、グレーターなんば2050のあるべき姿

ENTAME - DIVER - CITY
-Meet ! Eat ! Beat ! On NAMBA-

まちづくりの方針

1 鉄道・オフィス・SCなどなんばエリアの既存リソースの深化
2 新駅周辺を核とした不動産開発や公共空間利活用
3 賑わいづくりの担い手となる人財集積・育成・コンテンツ開発

ねらう効果

消費機会 Chance ＝ 来街人数 Number × 滞在時間 Time × 来街頻度 Frequency



グレーターなんばエリアを構成する主要スポット

今後、関西経済への刺激となるさまざまな好機が訪れ、未来のなんばを考える機運が高まることが期待されます。当社グループにおいては「グレーターなんばビジョン」を策定し、さまざまな施策の実行を通じて、次世代のなんばとして「エンタメダイバーシティ（ENTAME-DIVER-CITY）」の実現を目指しています。既存施設の深化、不動産開発、公共空間の利活用、担い手の育成などハード・ソフトの両面で基盤を構築し、「来街人数」「滞在時間」「来街頻度」の増加、ひいては「消費機会」の増大を目指すことで、なんばのまちのサステナビリティを高め、持続的な賑わいの創出に取り組んでいきます。

■ グレーターなんば構想のソーシャルインパクト

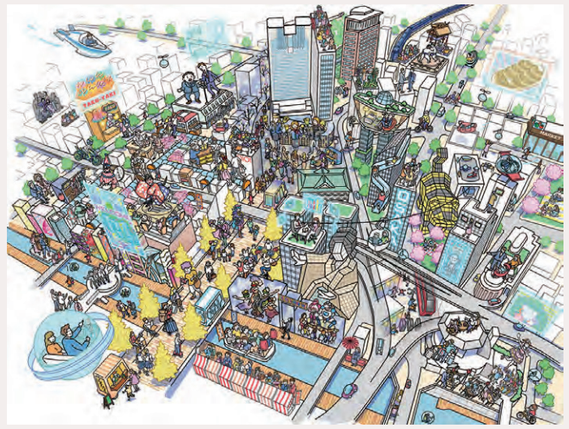
当社グループでは、「グレーターなんば構想」を見据えて、前中期経営計画「共創136計画」では、なんばのまちづくりに約130億円を投じてきましたが、現中期経営計画「共創140計画」においても、同規模の金額をなんばエリアにおける収益拡大を企図した投資に充てる計画としています。

なんば駅東側、なんさん通り沿いに面する敷地では、大阪市の都市計画決定を受け、共同事業者とともに高層の大型複合ビルの事業化を検討しているほか、なにわ筋線開業を見据え、なんばの通過リスクに対して打ち手を講じるべく、（仮称）南海新難波駅周辺の物件探索にも取り組むなど、今後も「グレーターなんば」の取り組みには最優先で経営資源を投入していく考えです。

加えて、なんばエリアで当社が管理するオフィスビルや商業施設で働く約1.5万人へのワーカーサポートの提供、道頓堀川遊歩道「とんぼりリバーウォーク」の運営管理、「ミナミまち育てネットワーク」を通じたエリアマネジメント活動、なんばエリアでクリエイティブ活動の機会を展開するクリエイターインレジデンスプログラムの実施など、ソフト面の取り組みにも注力しています。

多様なステークホルダーと、「なんばをより良いまちに」という目標を共有し、エンターテインメントを核にしたもっとワクワクするエリアを目指すことで、賑わいと魅力あふれるまちを共創し、そのまちのそばで働き、暮らす魅力を高めることで、南海ブランドの社会的な価値向上に資する好循環を生み出していく考えです。

国際的な観光都市として成長するなんばエリアの未来イメージ


難波エリアの都市格を公民共働で高めるまちづくり懇談会（事務局：大阪商工会議所および当社）が2022年4月に公表したまちづくりビジョンより引用。本パース図はビジョンをイメージしていただくために作成しているものであり、関係機関や地権者の方々の合意を経て作成したものではありません。